

「実物資産」

米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題など、国際社会はますます混迷の度を深めています。世の中が不安定になると、投資先として「金」など実物資産の人気が上がるといわれています。

1. 「実物資産」とは？

「実物資産」とは、形があってそれ自体に価値があるものを言います。不動産、貴金属、絵画などが代表的なものです。実物資産の対極が「金融資産」です。金融資産は、それ自体には価値がないものの、資産としての価値を国家や企業が保証しているもので、現金、預金、株式、公共債などを指します。「1万円札で買い物ができるのだから、それ自体に価値があるのでは？」「株式や債券は有価証券というから、価値があるのでは？」などと思われるかもしれませんが、1万円札は元をたどれば単なる「紙」で、紙幣に対し国が「日本銀行法」という法律で無制限に通用すること（強制通用力）を保証しているのです。株式などのいわゆる有価証券も発行する企業などがその価値を保証しているのであって、仮に発行企業が倒産すればそれらは「紙くず」になってしまうことでご理解いただけると思います。

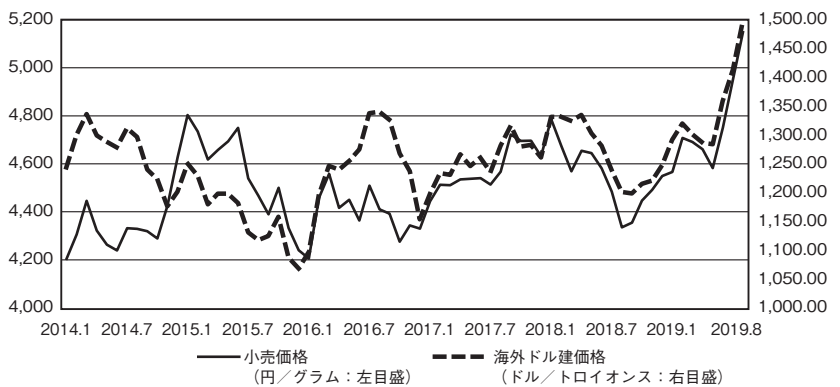
日々使うシャツやボールペンなども「実物」ではありますが、あまり「資産」とは言いません。モノが資産となるためにはいろいろ条件があります。まず「希少性」です。道端の石ころは誰も見向きもしませんが、貴金属などは高価格で取引されます。希少性の代表的なものが「金」で、これまでに人類が採掘した金の総量はオリンピックプール約4杯分に過ぎないそうです。また、いつの世も、そして国や地域に関係なく価値が認められる「普遍性」も重要な条件です。さらに、保有中に劣化しない「耐久性」も重要です。金は濃塩酸と濃硝酸を一定比率で混合した「王水」にしか溶けませんので、これも合格です。

一方、金融資産と比較して、実物資産は流動（換金）性が低いこと、保有コスト（税金など）が発生すること、また、それ自体は付加価値（利息など）を生じないなどの特徴（デメリット）もあります。資産はひとつに集中させず、金融資産なども含め複合的な分散投資が「王道」のようですね。

2. 金価格（月平均）の推移

日本における金の価格について、2000年当初は1グラム当たり1,000円前後でしたが、徐々に上昇、2011年7月以降は4,000円台をキープ、2019年8月には5,000円の大台を突破しました。図表は過去5年間の金1グラム当たりの月別平均価格の推移を表したのですが、今年後半に入って急激に価格が上昇していることがわかります。やはり今は世界が混とんとしているということでしょうか？!

図表 金1グラム当たりの月別平均価格推移（過去5年間）



田中貴金属工業ホームページ「金価格推移」より

※「小売価格」は田中貴金属における税抜参考小売価格

※1トロイオンスは約31.1グラム

閑話ひとつ

- ▶わが家で飼っていたシーザー犬のチョコビは2016年3月に、れんも2018年6月に「虹の橋」に旅立ってしまいました。橋のたもとで私を待っているのかと思うと胸が詰まる思いですが、その後、縁あって保護犬のシーザーを2匹引き取り里親となりました。今は推定7歳のだんく、同9歳のちゃん太と楽しい毎日を送っております（もちろん、チョコビとれんのことを忘れてはけませんよ！）。
- ▶「Angel's Tale」という横浜を中心に活動するボランティア団体から譲り受けたのですが、保護される犬が後を絶たないのだそうです。逃げ出して飼い主不明となるワンコもいますが（だんく、ちゃん太がそうです）、高齢で独り暮らしの飼い主が介護施設に入居するため保健所に持ち込まれたり、多頭飼育が崩壊し複数匹が同時に保護されたりする場合も多いそうです。
- ▶これから犬（猫も）を飼おうという皆さん、どうか「かわいい」「飼いたい」などの感情だけで飼わないでください。自分には最期まで面倒をみる意思と環境があるのかどうかをしっかりと確認してほしい、ワンコ好きとして切にお願いします。

(MS)